

中学校

# 「日米共同理科教育ネットワークプログラム」を通じた国際交流

附属中学校・教諭

井村 健

## 附属中学校はCSSNに 取り組んでいます

本校は、昨年度のMTPに引き続き、二〇〇五年度は「日米共同理科教育ネットワークプログラム」(CSSN)に参加しています。CSSN(コラボレティブ・スクール・サイエンス・ネットワークプログラム)とは、日米教育委員会(JFME)が主催している理科系の新しい国際交流プログラムの一つです。このプログラムは、共通のテーマに基づき、インターネットを利用したテレビ会議やEメールなどでの交流を行いながら、生徒たちがお互いの国を訪問して、理科教育を通じた国際交流に取り組むことができるというものです。このプログラムには、本学、森本教授に学長裁量経費を申請していただいて、大学より実験器具などの購入の援助を受けています。

## 気仙沼・奈良での 夏期交流プログラム

昨年8月には、ニューヨーク(以下NY)から、パートナー校のモットホー

ルミドルスクールの中学生四名と引率の先生二名が来日し、宮城県気仙沼市「リアスARK美術館」と奈良で行われたサマーキャンプに参加しました。CSSNの今年のテーマは「宇宙と生命」です。日米生徒のディスカッションでは、「ことば」だけでは通じないときは身振り手振りや紙に絵を描いたりして、互いにコミュニケーションをとりました。生命誌研究館館長の中村桂子氏の「生命の起源」についての講話を聞いたあとで、



第1回テレビ会議

生徒の一人は「生命の誕生について、今までとは違う視点から考えたり質問もすることができて、疑問がはれてすっきりしました。」と感想を述べていました。プログラム後半は奈良に戻り、モットホール校のみなさんが本校を訪れ、科学部のMTPの活動や将棋の体験をしてもらいました。午後は、学研都市にある「私のしごと館」で、国際宇宙ステーション(ISS)内「きぼう」での「宇宙開発」模擬体験や大西武雄先生(県立奈良医大)から「宇宙での生活—Life in Space」



モットホール校のみなさんと一緒に

のお話を聴きました。翌日の奈良観光では、NYの生徒たちは鹿に追いかけられたり大仏の大きさに驚いたり、楽しいひとときを過ごしました。その日の午後、奈良教育大学で柳澤保徳学長先

生への表敬訪問を行って、「今回のプログラムで学んだ内容」のプレゼンテーションを行いました。奈良での活動の二日間、一条高校外国語科の学生さんに、通訳ボランティアとして協力をしていただきました。

## 中学生による 「宇宙実験」への参加に向けて

モットホールスクールは、これまでも宇宙実験に参加してきました。生徒たちはいま、次回のスペースシャトルでISSに運んでもらうための、「宇宙放射線」に関わる宇宙実験の内容を日米共同で検討しています。そのための地上実験の一つとして、毎日、中庭で太陽からの紫外線量の測定を行ったり、紫外線ランプを使用した実験などを行って、その結果をテレビ会議で報告してきました。3月下旬には、本校の二年生四名と本校教諭の井村と奈良市立一条高等学校の紀川浩司教諭がNYのモットホールミドルスクールを訪問して、お互いの「宇宙実験」のアイデアをもとに、中学生による日米共同の宇宙実験の計画をまとめる予定です。